

令和7年度第1回別府市総合教育会議議事録

1 日 時 令和7年9月2日（火） 開会 午後1時30分

2 場 所 別府市役所レセプションホール

3 出席者

（構成員）別府市長	長野 恭紘
教育長	寺岡 悌二
教育委員	福島 知克（教育長職務代理者）
教育委員	山本 隆正
教育委員	新谷 なをみ
教育委員	松浦 倫
教育委員	田中 淳子
（学識経験者）別府市総合政策アドバイザー/東京都立大学客員教授	陳内 裕樹
（事務局）総務部長	竹元 徹
総務部次長兼総務課長	行部 さと子
総務課長補佐兼政策法務係長	藤内 洋一
総務課主査	井上 義徳
総務課主事	甲斐 大地
教育部長	矢野 義知
教育部次長兼図書館共創交流局長	稲尾 隆
教育部次長兼教育政策課長	森本 悦子
図書館共創交流局参事兼図書館長	西澤 和江
教育政策課参事	時松 哲也
教育政策課長補佐兼教育政策係長	加藤 雄海
教育政策課教育政策係	佐藤 元昭
教育政策課主事	干潟 一郎
学校教育課長	宮川 久寿
学校教育課参事	藤内 護
学校教育課参事兼教育相談センター所長	藤原 良浩
学校教育課参事（共生社会実現・部落差別解消推進課参事併任）	種村 由加
学校教育課指導主事	佐藤成一郎
学校教育課指導主事	大島 憲征
社会教育課長	津川 文隆
（オブザーバー）市立小学校長・中学校長	

4 議 事

(1) 議題 教育 DX に関する全国の情勢と別府市が目指すべき教育 DX のあるべき姿
～教育 DX に関する正しい理解と推進体制について～

(2) 目的 教育 DX についての現状の把握と意見交換

(3) 経過

ア 別府市総合教育会議運営要綱第3条により市長が議長として会議の議事進行を行い、別府市総合政策アドバイザー/東京都立大学客員教授の陳内裕樹氏から、教育 DX に関する全国の情勢と別府市が目指すべき教育 DX のあるべき姿について提言が行われた。

主な提言の内容は以下のとおり。

- 教育 DX 推進体制（組織／人材）づくりが必要である。
- 校務 DX から始める教員の余白づくりが重要である。
- コンピュータベースドテスト（CBT）対応が急務である。

全国学力・学習状況調査が2027年度から、パソコン端末を活用する方式に移行する方針案が示されたこともあって、タイピング技術が必要になるためキーボードが必須となる。

- 別府市教育最高 AI 責任者（CAIO）／補佐官の登用を行うべき。
- DX を進めるため、新しい価値の創造・改革（X（トランスフォーメーション））を意識するべき。

イ 教育 DX について、意見交換がなされた。主なものは以下のとおり。

- DX により欠席の連絡をタブレットに送れるようになり、電話対応しなくてよくなったなど、よいところも多くあるが、一方で保護者と教員とのコミュニケーション不足や児童・生徒の書く力の衰えなど失った部分もある。

このまま推進していけば、人間力、子ども達の伸びる力が下がってしまうのではないかと。日本は、ICT 教育先行国の事例も学ぶべきだ。

- 書く能力は100年後も必要であろうと思われるが、新しい能力もより必要になるとと思われる。デジタルそのものに着目するのではなく、何を変えていくのかという X の部分に着目して意見をまとめ、大きな合意形成を行う必要がある。
- 優しさや柔軟性といったしなやかさの教育が大綱の理念の1つになっている。これを GIGA スクール構想の中でどのように行っていけばよいか。
- DX やデジタルは、万能ではない。GIGA スクール構想については、国がデジタルをどんどん進めようと言っているように思えるが、これを翻訳して、しなやかな教育に即して計画に落とし込んでいく必要がある。
- 教員にとっては仕事が楽になり余った時間を有効活用でき、児童・生徒にとっては教育が標準化されるといったことを教育 DX で目指していけるのか。
- 目指していけるようにしなくてはならない。

DX を一番上位にある教育大綱に資するようにするため、教育 DX 計画といった別府市のビジョンを実行する計画を作っていくことがこれからの挑戦に

なると考える。

- 教員は、文部科学省の決まりに従い学習を進める中で、児童・生徒に学力を身に付けさせるとき、AI だけでなく、体験学習などいろいろなものを選ぶ時代になっている。生きる力を身に付けさせていくために、AI に使われるのではなく、ツールの 1 つとして使いこなせるようになっていければよい。
- AI があるのが当たり前になっていく中で、基準を作りながら使いこなしていくことは、ある意味で競争であり、それを楽しみながら行っていくことが強い地域を作ることにつながる。

教務 DX ではなく、校務 DX から始めることが国の方針である。

- 一定数の学生や生徒への特別な配慮が必要となるし、また、アナログで見えていかないとけないという教育現場の声もあり、数年間は、デジタルとアナログのハイブリットで行かなければならないと考えるがどうか。
- デジタル機器を有しない家庭への配慮など、学校の事情に踏まえて柔軟対応をすることは、国も言っているところ。
デジタルがアナログを全て排除するわけではないし、デジタルが万能でもない。教員が楽になりながら人生 100 年時代の子どものことを考えるときに、デジタルで行えることはデジタルで行い、そこに AI も導入するということを大方針とした上で、臨機応変さを取り入れた計画とするのがよい。
- 子どもたちが幸せになるために、デジタルとアナログを併用した未来を見据えた教育が必要になる。
- デジタル化や AI は、あくまで手段に過ぎない。電卓ができたときと同じように複雑なことにすぐに答えを出してくれるようになり、それをどう進化させ、高度に使いこなし、活用するかということが人間の役割になる。
- 教育最高 AI 責任者には、どういった人物を据えるのがよいか。
- 最高 AI 責任者については、細かい話ではなく、新しい地域づくりに AI を活用して変革していこうとする最高責任者は技術者でない方がよく、例えば市長などがよい。そこに技術的なことを提言できる補佐官を置くのがよい。

(4) 決定事項

なし

(5) 保留・検討事項

なし